

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和5年度2月号

#### ○ 概要

- (1) 令和5年度2月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,869億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+9.1%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,463円（伸び率+0.5%）であった。（→P.1,2）  
調剤医療費の内訳は、技術料が1,852億円（伸び率+8.1%）、薬剤料が5,005億円（伸び率+9.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が979億円（伸び率+3.5%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,360円（伸び率+1.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.78種類（伸び率+0.5%）、26.9日（伸び率▲2.5%）、72円（伸び率+3.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,891億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+344億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の708億円（伸び幅+63億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+163億円（総額317億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,891億円 (+344億円)	39 その他の代謝性 医薬品(708億円)	21 循環器官用薬 (544億円)	11 中枢神経系用薬 (519億円)
0歳以上 5歳未満	18.8億円 (▲1.2億円)	44 アレルギー用薬 (6.1億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0億円)	61 抗生物質製剤 (2.5億円)
5歳以上 15歳未満	113.1億円 (+19.0億円)	44 アレルギー用薬 (39.0億円)	11 中枢神経系用薬 (26.0億円)	62 化学療法剤 (16.1億円)
15歳以上 65歳未満	1,479億円 (+156億円)	39 その他の代謝性 医薬品(268億円)	11 中枢神経系用薬 (265億円)	42 腫瘍用薬 (165億円)
65歳以上 75歳未満	813億円 (+24億円)	39 その他の代謝性 医薬品(180億円)	42 腫瘍用薬 (140億円)	21 循環器官用薬 (130億円)
75歳以上	1,467億円 (+147億円)	39 その他の代謝性 医薬品(253億円)	21 循環器官用薬 (247億円)	42 腫瘍用薬 (193億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,463円（伸び率+0.5%）で、最も高かったのは高知県（11,334円（伸び率+1.6%））、最も低かったのは佐賀県（8,193円（伸び率+2.9%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは宮崎県（伸び率+3.3%）、最も低かったのは鳥取県（伸び率▲3.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	85.3 %	+1.6 %
薬剤料ベース	19.6 %	▲1.1 %
後発品調剤率	81.7 %	+1.3 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.4 %	+0.5 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.5 %	+25.2 % (15歳以上 20歳未満)	▲11.4 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.6 %	27.1 % (100歳以上)	13.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.3 %	89.3 % (100歳以上)	81.3 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	820 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (244 億円)	11 中枢神経系用薬 (136 億円)	23 消化器官用薬 (93 億円)
0歳以上 5歳未満	6.9 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	23.2 億円 (+2.5 億円)	44 アレルギー用薬 (13.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳以上 65歳未満	300 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (49 億円)
65歳以上 75歳未満	168 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75歳以上	322 億円 (+10 億円)	21 循環器官用薬 (112 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,348 円	1,711 円(北海道)	1,133 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.7%	▲2.8 % (佐賀県)	▲6.6 % (鳥取県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.3 %	91.2 % (沖縄県)	81.8 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.6 %	22.2 % (鹿児島県)	17.2 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	81.7 %	86.4 % (沖縄県)	77.9 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.4 %	67.5 % (沖縄県)	56.8 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。